

芦安中学校 自己評価書（前期）

令和3年8月24日（火）

南アルプス市立芦安中学校

1 自己評価（前期）の経過

（１）前期教職員対象アンケート及び生徒対象・保護者対象アンケートの実施（７月）

（２）アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議（８月）

小中一貫校の取組の観点から、評価項目は基本的に芦安小学校との共通で実施。

2 学校評価の分析と改善方策

（１）学校運営・学校経営

〔達成状況〕 学校全体としては、学校教育目標を意識した肯定的な回答が多く良好な状態にあると言えるが、まださらなる改善の余地が残っている。また、今年度はほぼ予定通りに教育活動が実施されており、PDCAサイクルによる教育活動の改善が進んではいるが、現状を分析しながら全体的にバランスよくおこなっていく必要がある。また、新しい生活様式が２年目を迎え、感染症対策を常に意識しながら教務主任や研究主任を中心に打ち合せを重ね、小中合同の行事や校内研究会を予定通り全体で実施し、新しい課題に向けた研究成果が得られた。今年度はGIGAスクール構想として１人１台パソコンの導入により、校内研究のサブテーマにICTの活用が加わり、個別最適な学びと協働的な学びの研究に向けて取り組んでいる。校務分掌に関しては、小規模校のため１人で複数の分掌を受け持ったり、様々な分掌を任されることがあるため、さらなる連携体制を整える必要がある。

〔改善策〕 学校運営に関して、全体的に学校教育目標を意識した取組になっているが、AとBの割合が半々であり、BからAへ移行できるようさらに意識を高め目標を持って継続的に取組を行っていきたい。今年度はほぼ予定通りに教育活動が実施されており、それぞれPDCAサイクルを意識した取組を取り入れながら、より一層の改善にさらに努めていきたい。また、新しい生活様式が２年目を迎え、教務主任や研究主任を中心に打ち合せを重ね、小中合同の行事や校内研究会を全体で実施し、小中連携による授業研究を行うために、中学校の教員が小学校の授業参観を行い、中学校の教員が小学校の児童の実態を踏まえた授業を行うという取組を行っている。さらに、今年度はGIGAスクール構想として１人１台パソコンの導入により、校内研究のサブテーマにICTの活用が加わり、個別最適な学びと協働的な学びの研究に向けて取り組み、ICTの活用が主体的・対話的で深い学びにつながっていくように、より一層研究を深めていきたい。学校運営にあたって各分掌の職員同士が連携を取り、共通理解を図りながら学校全体で取り組む意識を高める。小規模校の特性をふまえ、教育活動が常に全職員の共通理解のもと連携しながら進められるようにする。

（２）学習指導

〔達成状況〕全体としては概ね良好であると言えるが、今年度は１人１台パソコンの導入によるＩＣＴの活用によって、やまなしスタンダードによる授業改善に取り組みながら、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて授業づくりを行っている。また、授業の最初に授業のめあて（目標）を示して授業を展開しながら学習内容の定着を図り、振り返りを行うことで次への見通しを持たせて、学んだことを他の場面で生かせるように授業づくりを行っている。しかし、授業や学習について、「授業は楽しいですか」「授業はわかりますか」という項目に対して、８割の肯定的な回答が得られ概ね良好な状態だが、悩みを抱えている生徒が２割、子どもの授業内容の理解度を心配している保護者が２割おり、よりわかりやすい授業や個別指導がさらに必要である。また、授業中、発言や発表をしたり、教師や友達の発表に耳を傾けるという項目で、授業に対する意識が徐々に高まり、集中力が身についてきている。その成果として、定期テストはもちろん到達度確認検査でも成績がかなり伸びてきている。今年度は、別室登校の生徒や授業を受けられずに教室を出してしまう生徒もあり、学習指導には苦慮しているが、指導によって少しずつ授業に慣れてきている。家庭学習については、与えられたものについてはできるようになってきているが、自主学習にはまだ課題がある。

〔改善策〕１人１台パソコンの導入によるＩＣＴの活用によって、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて授業づくりに取り組んでいる。そして、やまなしスタンダードによる授業改善に向けて、授業の最初に目標を示し、学習内容の定着を図りながら、振り返りを行うことで学んだことを次に生かせるような授業の流れの工夫を図っていききたい。また、授業の中でわからないことがあり、あまり楽しくないという生徒が一部おり、２割強の保護者が子どもの授業内容の理解度を不安に思っている。授業内容の理解度は、個人差もあり、生徒のつまずきを丁寧に見取り、わかる授業に向けた授業改善とＩＣＴの活用を含む個別の生徒へのサポート体制を充実させていききたい。また、授業中、発言や発表をしたり、教師や友達の発表に耳を傾けるという項目で、授業に対する意識が徐々に高まり、集中力が身についてきており、定期テストはもちろん到達度確認検査でも成績がかなり伸び、教室内で授業を受けられないことがある生徒も少しずつ授業に慣れてきており、継続して学校でのサポート体制を整えていきたいと考えている。家庭学習については、家庭学習と授業との有機的な結びつきを意識した指導について研究し、宿題から自主学習へと発展できるように、自主学習ノート等も活用しながら指導していきたい。また、宿題に関しては生徒たちの意識に変化が見られ自主学習をするという習慣が徐々に改善されてきているが、まだ否定的な回答をしている生徒は２割おり、さらに発展的な学習に向けた指導や家庭と連携しながら個別指導をさらに充実させていきたい。

（３）生徒指導

〔達成状況〕今年度は、学校生活全般について、「学校は楽しいですか」という項目に対して９割の生徒が肯定的な回答をしており、概ね良好な状態ではあると言える。学校生活の中で、生徒とのコミュニケーションを日々積極的に行い、生徒一人ひとりとの対話を大切にすることで、生徒理解に努め、生徒たちが安定した学校生活が送れるように環境づくりを行っている。特に、あいさつは、かなり意識が

高くなって改善されてきており、規律正しい生活に対する意識が高まってきている。しかし、「時間を守る」や「当番や係・委員会の仕事・清掃活動への取組ができています」は3割の生徒が否定的な回答をしている。これは、今年度、不登校傾向による別室指導が必要な生徒や教室で落ち着いて授業が受けられない生徒があり、諸活動にいっしょに参加できないことも多く、こうした反省になっていると考えられる。また、保護者は学校での子どもの友達関係をととても心配しており、3割強の保護者が否定的な回答をしている。また、不登校傾向による別室指導が必要な生徒や教室で落ち着いて授業が受けられない生徒がいるため、保健室の利用に難しさが出たり、教職員を毎日総動員して対応している。現在はスクールカウンセラーにもつなげ、対応について継続的に検討している。

【改善策】生徒の学校生活全般については、概ね肯定的な回答をしているが、一人ひとりの状況を見てみると悩みや問題を抱えている生徒があり、その一人ひとりに寄り添ってよりきめ細かな指導を行っていく必要がある。「お子さんにとって、学校は楽しいところだと思いますか」という項目に対して、肯定的な回答をしている保護者は7割弱いるが、3割強の保護者が否定的な回答をしている。全員が楽しいと感じられるように、生徒たち一人ひとりの声に耳を傾け、保護者と連携しながら常に生徒たちの実態を把握し、生徒たちの充実感を高めていきたい。また、生徒同士の間関係にも注視し、「困ったときに相談できる友達がいる」と全員が回答できるように生徒に寄り添った指導を行っていききたい。また、「先生は声をかけたり、話をしてくれますか」の項目は改善が進んでいるが、引き続き日々の学校生活の中で、生徒一人ひとりとの対話を大切に、コミュニケーションを積極的に行うことで生徒理解に努めていきたい。また、不登校傾向による別室指導が必要な生徒や教室で落ち着いて授業が受けられない生徒に対して、職員全員で常に情報共有しながら丁寧に対応すると同時に、今後も継続してスクールカウンセラー等の専門家に指導・助言をあおぎ、生徒の指導について検討しながら対応を行っていききたい。また、当番や係・委員会の仕事、清掃活動への取組は徐々に改善されてきており、全員が同じ意識を持てるように個別指導と全体指導を組み合わせ継続して指導を行っていききたい。さらに、生徒たちが自分の考えや意見を伝え、他者の話に耳を傾ける姿勢を持てるように、教職員が積極的にコミュニケーションを行って信頼関係を深め、生徒の小さな変化に気づくように共感的な生徒理解に努めていきたい。

（４）保護者・地域との連携

【達成状況】学校の教育活動について情報の提供・公開を行っているかという項目では、8割強の保護者が肯定的な回答をしているが、2割弱の保護者が否定的な回答をしており、現状分析を行って具体策をとるとともに、引き続き、ホームページや学校・学年だより、電話連絡等で情報の発信を定期的に行い、保護者・地域との連携に向けた情報共有をより一層積極的に行っていききたい。今年度は、4月には授業参観やPTA総会・学年部会等、さらには学校林整備、引き渡し訓練、全校登山、三者懇談等がすべて予定通り実施され、多くの保護者の方に参加・協力していただくことができた。2学期以降も保護者・地域との連携体制を大切にしていきたい。また、家庭での生活は、早寝早起き等の規則正しい生活を実践できている生徒が7割で、生活のリズムに課題がある生徒が3割いる。規則正し

い生活を送れるように個別指導も含めた指導を行い、継続的に取り組んでいきたい。学校での出来事を話す時間はあるかという項目では、全員の保護者が肯定的な回答をしており、学校での様子がある程度家庭に伝わっており、今後も継続して家庭への情報発信を行っていききたい。また、家庭での読書は、肯定的な回答は、9割を超えている。学校の朝読書の活動の延長として、今後も読書の意義を確認しながら読書活動に力を入れていきたい。朝食を取っているかについては、全員の保護者から肯定的な回答があり、今後もその家庭の指導の上に、健康保持に向けて望ましい生活習慣と食習慣の大切さについて保健指導と合わせながら、継続して指導していきたい。

〔改善策〕保護者や地域の願いや学校に対する要望等に耳を傾けているかという項目に対して、8割強の保護者が肯定的な回答をしているのに対し、2割弱の保護者が否定的な回答をしている。保護者との日常の対話を大切にしながら、家庭訪問・面談・電話連絡・アンケート等で、学校の意見や要望等の吸い上げを積極的に行い、学校運営に生かしていきたい。そして、学校ホームページや学校だより・学年だより等で、定期的に学校の教育活動の情報発信とその都度必要な情報をメールや電話等を使って連絡を取り合いながら、今後も継続した連携に向けて情報共有を図っていききたい。また、PTA活動に積極的に関わっているかという項目では、9割強の保護者が肯定的な回答をしており、全体的に保護者からの協力が得られていることが分かる。ただ1割弱の保護者がそう感じていないことを考えると個別対応を含め、今後も保護者と教育目標を共有しながらより多くのPTA活動へ参加・協力しただけのように工夫・改善し、さらなる充実を図っていききたい。基本的生活習慣を身につけさせるようにしているかという項目では、9割以上の保護者が肯定的な回答をしており、その基盤の上に、中学校での生活規律や社会性等を身につける指導を行っていききたい。さらに、部活動については、9割の生徒が楽しいと感じているが、1割の生徒が否定的な回答をしており、さらに4割強の保護者が否定的な回答をしているため、個別対応も含め保護者と連携しながら、全員が楽しいと感じられるような部活運営を目指していききたい。また、学校安全に関して、生徒たちが安全・安心な学校生活が送れるように、定期的に安全指導や安全点検を行い、可能な範囲で地域や保護者とともに取り組むようにしていきたい。

（５）学校の特色ある取り組み

〔達成状況〕本校の大きな特色としてまず自然体験活動が挙げられるが、まず、4月には学校林整備として桜の苗木の植樹を行い、今回は1家庭に1本の植樹とし、親子での活動を仕組むことができた。また、7月には芦安ファンクラブの方々にご指導・ご協力をいただき、全校登山を実施し、生徒たちが2泊3日で北岳に登頂することができた。生徒たちにはとても大きな財産が残ったと思う。また、小中合同行事に関しては、自然体験活動も含め、イングリッシュゲーム・英語読み聞かせ・学習サポート等のすべての活動が実施され、7割の生徒が肯定的な回答をしており概ね良好と言えるが、一方で3割の生徒と2割強の保護者が否定的な回答をしており、活動についてもう一度、その意義や成果と課題を検証しながら、改善を図っていききたい。校舎の安全管理や衛生指導、保健指導については、手指の消毒やソーシャルディスタンス等の感染症対策を講じた上で、生徒たちの健康安全面に配慮し

ながら指導を行うことができた。部活動についてはガイドラインに基づき換気とソーシャルディスタンスを意識して活動を行うとともに、今年度は県選手権や中巨摩総体・県総体がすべて予定通りに実施され、生徒たちも積極的に臨むことができた。

〔改善策〕本校の特色である自然体験活動を中心に活動を計画的に仕組むことができおり、今後も活動が充実するように引き続き関係団体と連携しながらさらに工夫・改善を図っていききたい。日常の学校生活の充実を図ることが、生徒のさらなる成長へとつながっていくため、行事運営だけでなく日常的な生徒会活動や委員会活動の活性化も進める中で、充実した教育活動を展開していききたい。部活動については、体力・筋力トレーニングや基礎トレーニングから始まり、部活動指導員の協力を得たり、実践的指導と個別指導を継続し、バドミントン部も音楽部もガイドラインに基づいて換気とソーシャルディスタンスを意識した部活動に取り組み、全員が部活動が楽しいと感じられるように生徒や保護者と絶えず意思の疎通を図りながら活動をさらに充実させていききたい。さらに、家庭での読書は、肯定的な回答は、9割を超えている。学校の朝読書の活動の延長として、読書の意義を確認しながら今後も読書活動により一層力を入れて取り組んでいきたい。

【重点課題】

今年度もコロナ禍で、児童生徒の健康・安全を確保し学校全体で共通理解をしながら、校舎の安全管理や衛生指導、保健指導についても、新しい生活様式にしたがって、手指の消毒やマスクの着用、ソーシャルディスタンスを保ち、さらに活動の幅を広げていきたい。PTA活動に積極的に関わっているかという項目で9割近い保護者が肯定的な回答をしており、新しい生活様式の中で今後も保護者と教育目標を共有し、教育活動を工夫しながら参加・協力していただき、さらなる教育活動の充実を図っていききたい。また、生徒指導の項目でも触れたが、今年度は不登校傾向による別室指導が必要な生徒や教室で落ち着いて授業が受けられない生徒に対して指導や支援を行うために、職員全員で常に情報共有しながら丁寧に対応すると同時に、今後も継続してスクールカウンセラー等の専門家に指導・助言をあおぎ、生徒の指導について検討しながら対応を行っていききたい。さらに、昨年度から問題提起されている中学校の校則について、今学期はまず3年生に社会の時間に本校の校則について考えるという取組を行った。それを受けて2学期は1・2年生にも同様の取組を行い、最終的には生徒総会で話し合う予定である。校則については、教師からの一方的な投げかけではなく、生徒たちにも自ら考えさせ、どうやったら自分たちの学校生活が快適になり、みんなが安心して過ごせる学校になるか考えさせる教育を実践していききたい。

学校教育目標のもと、授業や様々な活動を通して、ICTも活用しながら主体的な学びに向かい、表現活動や他者との対話によってより深い学びにつなげ、生徒の自治的な意識の高揚を図り、生徒の自己有用感や自己成就感を高めていききたい。また、豊かな感性を磨き、自他の理解を深め、様々な個性を受け入れながら、思いやりの心の育成に努める。そして、家庭学習にも有機的に結び付くように授業の工夫・改善を継続的に図っていききたい。